令和７年度

専門学校　浜松工科自動車大学校

学校評価書（学校関係者評価）

専門学校　浜松工科自動車大学校　校長　　濱﨑　貴史

浜松工科自動車大学校評価委員会　委員長　小野田 康弘

1　教育理念・目的・育成人材像

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	理念・目的・育成人材像は定められているか。	学生便覧に教育理念を記載し、入学直後のガイダンスで学生に配付した上で説明をしている。また、学科ごとにそれぞれ「3 つのポリシー」を設定し、同様に学生便覧に記載している。ディプロマ・ポリシーの中に具体的な育成人材像が設定されており、ホームページ、学生便覧などで周知を図っている。	4	特になし	特になし
2	育成人材像は専門分野に関連する業界ニーズに適合しているか。	企業と連携した授業を積極的に展開し、学生が直接業界ニーズを感じることができている。 令和7年度は自動車整備科において「職業実践専門課程」の申請を行った。また、継続しての整備業界関係者を含めたカリキュラム編成員会の開催し、育成人材像は専門分野に関連する業界ニーズに適合するように対応している。	4	特になし	特になし
3	社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか。	中期構想として第１１次中期経営計画（2025～2027 年度）を策定し計画を推進している。令和6年度生より自動車システム工学科の定員を 25 名から 40 名に増員するなど、社会情勢を見越した対応を行っている。 令和 7 年 7 月の関連省令（指定自動車整備事業規則）の改正に伴い、1 級整備士のみが自動運行装置を備えた自動車を検査できる要件となり、1 級課程への募集活動の追い風となった。	4	令和8年度、完成年度となり運営基盤が軌道に乗る予定であるが、将来に渡り安定した学校運営を行うには5～10年先を見据えた中長期経営計画の策定も必要と考える。	少子化に対して学生をどのように確保していくのかを企業連携強化を踏まえて中期経営計画に記載していただきたい。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え

令和8年度国際オートメカニック科、令和9年度自動車システム工学科に対し職業実践専門課程を申請し、認定されるよう計画的に実行していく。

第12次中期経営計画に学生確保についての具体的な手段を記載していく。

２　学校運営

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	理念等を達成するための運営方針と事業計画を定めているか。	第１１次中期経営計画（2025～2027）を策定し、毎年度の事業計画及び予算計画に基づき運営を行っている。 ホームページには、「資金収支計算書」、「事業活動収支計算書」、「貸借対照表」、「事業報告書」、「財産目録」等が公開され、運営状況も明確にして運営方針・事業計画を明らかにしている。	4	第１１次中期経営計画に沿って事業計画を進めているが、令和6年度のシステム工学科定員贈に伴い、教材が不足しているため年度毎の事業計画は実情に修正しながら策定したい。	特になし
２	設置法人は組織運営を適切に行っているか。	毎年度、学校法人から組織図及び目標と方針が示され、それに従い学校運営を行っている。 各所属の組織は所属長が幹部職員の意見を参考に立案しており、適材適所による運営が行われている。	4	特になし	特になし
３	人事・給与に関する制度を整備しているか。	服務規程により人事、給与については整備されている。 人事評価は本人に開示し、上司と本人との面談を通じてその取り組みの良否を伝え助言指導を行い、本人の成長を促している。令和8年度は物価高騰等の理由により、全職員の給与が改定される計画である。	4	特になし	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え
各科で不足している教材、教育効果の上がる教材を計画的に購入していく。

３　教育活動

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
１	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育理念に沿って、育成人材の目標別（科別）に教育課程の編成をしており、その実施に当たっては、教育課程表を作成して授業カリキュラムを展開している。	４	特になし	特になし
２	教育目的、目標に沿った教育課程を編成しているか。	目標達成に向かってカリキュラムを作成している。また、業界の目標にも配慮して格差が生じないように留意している。令和6年度からは教育課程編成委員会（カリキュラム編成委員会）の外部委員の意見を参考に改善を図っている。	４	特になし	特になし
３	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価や単位認定、進級・卒業判定の基準は教務規定に明確に定められている。また、学生には学生便覧に明記して周知徹底をしている。	４	特になし	特になし
４	目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置付けているか。	自動車整備士の第一種養成施設の指定基準に則り教育課程を編成し、一級又は二級自動車整備士資格を取得するに必要な教育内容を設定している。	４	特になし	特になし
５	資格・要件を備えた教員を確保しているか。	国土交通省の定める教員の員数や能力は十分確保している。さらには、専門分野を担当する常勤教員は 13 名中 12 名が一級自動車整備士の資格を有している。	３	全教員 13 名の内、7 名が教員経験 3 年未満で自動車整備の経験はあるものの教員としてのスキルを積む必要がある。	1級未所得の職員に対して1級を取得していただきたい。職員研修は静岡工科と共にレベルを上げていただきたい。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え

1級未取得の職員に対しては計画的に1級を取得していく。教員のスキルについては毎年職員研修内で教員スキルに関する研修を行うことを計画し実行していく。

また、静岡工科と合同で職員レベルを上げていくための合同研修を計画していく。

４　学修成果

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	就職率の向上が図られているか。	企業と連携して企業奨学制度を運用し、早期に企業と学生の結びつきを深めている。また、自校に各企業を招いて企業ガイダンスを実施し学生に対して就職への意識づけを行っている。令和7年度卒業生については学校斡旋就職希望者全員が採用内定をいただいた。	4	特になし	特になし
2	資格・免許取得率の向上が図られているか。	令和7年度はソーシャル検定中級（A,E 科のみ）合格率 94.3%、ソーシャル検定上級（E 科3年生）合格率 89.5%で全国平均を上回った。また、1年生では研削砥石特別教育、アーク溶接特別教育、タイヤ空気充填特別教育の資格を全員が取得した。また、巻上げ機の特別講習の資格は2，3年生合計 111 名全員が取得できた。危険物乙種 4 類は希望者のみ受験したが合格者はいなかった。中古車査定士の合格率は 90.5%で2 名不合格であった。日本語能力検定合格率は N1：9.5%、N2：12.7%、N3：41.2%であった。	3	危険物乙4類、日本語能力検定について資格試験対策の方法を再度検討し合格率アップを目指していく。	近年危険物はエンジニアが必要としていない傾向にあることから取得する資格を再確認したほうがよいのではないかと考える。
3	卒業生の社会的評価を把握しているか。	本校では、令和6年度に自動車整備科1期生22名を輩出したが就職して1年目であり職場において技能コンクール等に出場していない状況ではあるが、自動車整備科2年生、国際オートメカニック科3年生の各企業へのインターンシップ巡回時や本校に来校する企業様に対して卒業生の様子を伺うなど、就職企業と密な関係を保ち卒業生の情報収集を行っている。	3	特になし	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え

日本語検定3級は必ず取得できるような体制を構築していく。また、現在の資格取得を再度見直し必要、不必要を明確にしていく。

５　学生支援

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	無料職業紹介所の届け出を行い、多数の求人獲得に努めている。令和7年度から浜松工科単独で企業ガイダンスを実施し、Careermapの運用により常に企業研究、企業比較ができる体制を整備している。また学生に対しては、職業指導の基本方針を明示し、担任による就職意識の向上、書類作成指導、面接指導を行っている。	3	今後社会情勢により留学生の就職が困難になることが想定される。企業に選んでもらえるよう日本語能力の向上に努めたい。	卒業生の離職者に対して聞き取り調査を実施し、離職者を出さない対策を実施してほしい。
2	退学率の低減が図られているか。	年度初めに、最大退学人数の目標値を定め、これを越えないように学生状況を把握し、職員会議等により職員の退学率低減意識を高め、組織的に退学者の減少に務めている。 進路に不安のある学生の早期発見、早期対応に努め、その兆候が見られた場合には、担任が中心となり、学生との面談や父母等との面談を繰り返し退学を防止している。	4	令和6年度に比べ R7 年度は退学率はかなり低下した。日頃から担任が学生の様子を伺い面談や父母等への連絡を実施している効果であると考える。今後もきめ細かい指導を実施していく。	特になし
3	学生相談に対する体制を整備しているか。	学生からの相談は、主にクラス担任が対応し、更に教務課長がカバーしている。また、ハラスメントに関する相談担当者も専任化されており、保健室、面談室なども用意している。授業料等納付金に関しては総務課、就職活動については担任又は就職指導担当者が窓口になっている。	4	特になし	特になし
4	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか。	本校独自の企業奨学・推薦制度、特待生選抜制度、日本学生支援機構の奨学金制度、入学生下宿サポート制度、指定校推薦生の入学金の一部減免等、学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能している。また、学納金も 4 回に分ける分納も支援になっている。その他、高等教育の修学支援機関としても認定されている。	4	特になし	特になし

5	父母等との連携体制を構築しているか。	父母等を正会員とする後援会組織があり、年１回実施される後援会総会後に各クラスでクラス担任と保護者との懇談会や個別相談会を実施している。1学期には保護者授業参観会、2学期には個別進路相談会を実施し、必要に応じて電話連絡により学生の状況を父母等に連絡報告し、学生状況に関する相互理解に努めている。	4	特になし	特になし
6	卒業生への支援体制を構築しているか。	卒業生に対しては①企業担当者からの聞き取り、②インターンシップの訪問時の確認、③サービス技術コンクールでの活躍確認を行うことを計画し、このうち①、②は今年度実施した。③は令和7年3月に卒業した学生に該当がなかったため実施していない。 また、整備士資格未取得があった場合には就職先企業と連携し、資格取得のフォローを行う予定がある。また、定期的に同窓会役員会を実施して、卒業後、数年経った離職者情報等を把握し、就職支援を行う予定である。	3	令和7年度から浜松カーフェスティバルを開催した。卒業生も多数来場していたため今後この催しを卒業生の状況確認ツールとして活用していきたいと考えている。	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え 卒業生で離職者が出た場合には、離職者への調査を実施していくことを考えていく。また、卒業生の状況確認はインターンシップ訪問、企業ガイダンス、カーフェスティバルを活用して随時実施していく。また、卒業生に対して状況を伺うアンケートを実施していく。

６　教育環境

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか。	自動車整備士養成施設の指定等の基準により、1.教室や実習場における生徒一人当たりの面積、2.実習で使用する教材、作業用機器、計測機器、検査用機器、3.使用される教科書等について明確に規定されており、これら第一種養成施設の指定基準を満たし有効に活用している。 教育用機器、機材に関しては中期経営計画に沿って年度ごとに計画的に購入していくと共に、自動車の新技術に対応するための機器・教材等の導入等、教育環境の充実に努めている。	3	1，2年生が使う教材については整備されている。また、3，4年生が使用する教材・機器については事業計画で充実を図っていく計画である。	教材で要望があれば可能な限り協力させていただきます。
2	学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	1年生に対してはそれぞれの学科について、企業が行う実習（校内）を 2 社ずつ、2年生に対しては 1 社ずつ実施した。自動車整備科2年生は8月、国際オートメカニック科3年生は11月に就職内定先においてインターンシップを実施した。	4	特になし	特になし
3	防災に関する組織体制を整備し、適切に運用しているか。	災害等対策対応マニュアルを備え、教職員への地震災害時の連絡体制については Google のクラスルーム及び LINE WORKS で安否確認を行うこととしている。緊急時の連絡体制は学生にも周知され、ホームページで緊急時の対応策が確認できる体制がある。災害時の備蓄品を整備し、学生数の 2 日分の食料等が備蓄されている。また、防災訓練（避難訓練）も年2回、火災、地震と目的に応じ実施している。	4	災害備蓄品の充実を図っていく予定である。	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え

1級課程で使用する教材の充実を図っていく。

7　学生募集

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	学生募集を適切かつ効果的に行っているか。	学生募集活動に関しては校内ガイダンス、会場ガイダンスへの参加、模擬授業の実施、本校での体験実習及び公開授業など積極的に取り組んでいる。高校や日本語学校の見学会も積極的に受け入れている。 令和 7 年度は関連省令（指定自動車整備事業規則）の改正に伴い 1 級整備士の需要が高まることを見据えた募集活動が効果的であり、1 級課程の募集が良好に推移した。	4	他校との差別化を行うべく、当校の特色づくりが必要。令和 8 年度以降、現役メカニックによる授業展開を行い、差別化を推進していく。	募集にあたり企業奨学金の見直しが必要である場合は相談をお願いしたい。
2	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか。	入学選考基準を募集要項で明確化し、適正に運用している。また、本校ホームページに各学科のディプロマポリシーからアドミッションポリシーを明記しており、受験生に対してミスマッチが起きないように配慮している。	4	特になし	特になし
3	経費内容に対応し、学納金を算定しているか。	各学科の学納金は、静岡工科に準じて設定されている。 JAMCA 校（特に中部・関東エリア）の学納金、競合他校の学納金を参考として、経常経費依存率、人件費依存率等の諸比率を総合的に勘案し設定している。また、学生負担の軽減に対して様々な取り組みを行っている。	3	物価高騰及び職員の処遇改善により経費が増大しているため、学費の引き上げが必要な状況である。	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え

本校を選択してもらえる優位的な差別化を考え実行していく。

８　財務

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか。	事業活動収支においては、令和7年度の在籍数が190名と前年度より大幅に増加したため収支も大幅に改善されたが、減価償却費による影響が大きいため、収支は未だマイナスとなっている。令和8年度の在籍数は250名に達する予定であり、財務基盤は中期経営計画どおり安定する見込みである。	4	退学者数、入学生数、上級課程への進学者数の目標達成により、財務基盤が安定してきた。賃上げ、物価高による収支悪化を学費の値上げにより対応したが、今後も引き続き経費節減に努め収支改善に努めていく。	特になし
2	教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか。	中期経営計画（2025～2027 年度）を策定する中で、教育目標を踏まえた事業計画（活動、予算）を策定している。昨年よりは計画外の費用は減少したが、本年度も計画外の費用が生じることがあった。	3	開校3年目であるが、計画外の支出が度々あった。予算管理者が実績と整合性を図り精度の高い予算を立案する必要がある。	仕入れルートの選択肢を多数持っておくようにしてほしい。
3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を行っているか。	監査法人により、「当年度事務処理状況調査、及び財務諸表各項目」について厳正に監査を行っている。 財務運用の業務そのものについても、法人本部による内部監査で問題がないか確認している。	4	特になし	特になし
4	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか。	当校は新設校のため、その母体である静岡工科の当年度財務諸表一式、及び、その前 3 か年の主要財務数値を、HP上に公開し、第三者からその財務状況が十分確認できる状態に維持している。	4	特になし	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え

光熱費等経費節約可能なところは継続して行っていく。また、仕入れルートをいくつか考え取引先の選択肢を広げていく。

予算の適正化に努めていく。

９　法令順守

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	令和5年に専修学校設置基準に則り、専修学校専門課程の設置認可を受け、また、第一種自動車整備士養成施設の指定も受け、その基準の中で運用を続けている。併せて自動車特定整備工場の認証も受け、関係法令に従って運用している。	4	特になし	特になし
2	職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っているか。	職業実践専門課程の認定申請は今年度（R7 年）自動車整備科について申請を行った。なお、国際オートメカニックは R8 年度、自動車システム工学科は R9 年度に申請を行う。	3	特になし	特になし
3	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか。	個人情報保護規程を策定し、内外に公表するとともに、校内で徹底し、年に1回職員研修を実施すると共に、法人本部の内部監査で規程に沿って個人情報が扱われているかどうかを確認している。また、学生情報を提供する企業とは機密保持契約を締結している。	4	特になし	特になし
4	自己点検評価、学校関係者評価を適切に行っているか。	自己点検評価は令和5年度分から取りまとめている。学校関係者評価は令和6年度から実施し、結果を本校 HP に掲載している。	4	特になし	特になし
5	教育情報について定期的に公表しているか。	科目等の概要についてシラバスに記載し本校ホームページで公開している。	4	令和6年度の教育実績について公開済みである。	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え 今後も法令を遵守した学校運営を図っていく。

１０　社会貢献・地域貢献

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	学校の教育資源を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか。	中学生、高校生の職場体験実習の受け入れ、エンジョイ・カードクターへの出展、お仕事フェアへの出展、浜松カーフェスティバル 2025 の開催等広く自動車業界、整備業界のPR活動に参加している。 また、県自動車整備振興会への講師派遣も行っている。	4	特になし	特になし
2	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか。	本年度は学生が長期休み（夏休み、冬休み）に入る前に学校周辺の清掃を実施した。今後は徐々にボランティア活動の実施回数を増やしていきたいと考えている。	3	今後は自活を中心としてボランティア活動を企画、実行する流れを構築していく。	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え ボランティア活動の幅を広げていく。

１１　国際交流

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか。	留学生の受入れは、二級整備士資格を 3 年間で無理なく取得できるカリキュラムを有した「国際オートメカニック科」を設置し、令和7年度は期首在籍73名となっている。また、令和7年度に国際オートメカニック科1期生が卒業し全員が整備士資格を取得し、日本国内に就職が決定している。	3	現状本校の学科教室数、実習場の面積に限度があるため、現在の定員 25 名から増加することができない。	特になし
2	留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続きがとられているか。	各担任がビザの確認を行い、更新時期を管理していると共にビザ更新の手続きも担当し適切で確実にビザ更新ができるような体制となっている。令和7年度は名古屋出入国在留管理局から「適正校（クラスⅡ）」に選定された。	4	ビザの更新、就労ビザへの変更許可や休退学があった場合の届け出などに学校として積極的に関わり、きちんと在籍管理を行った。	特になし
3	留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか。	各担任が日頃の生活についてきめ細かな指導を行っている。また入学時には生活指導をガイダンス中に実施している。	3	課税証明書の確認を行うことで入管法施行規則に定められた週当たり 28 時間のアルバイト時間を守らせるよう工夫している。	特になし
4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか。	資格取得率を本校 HP や体験実習の中で宣伝している。また、募集の関係で日本語学校へ訪問した際には学生の様子を報告するようにしている。	4	令和7年度国際オートメカニック科1期生が卒業し、15名全員が2級整備士資格を取得した。	留学生の積極的な取組み姿勢を日本人学生が感じる環境を設けてほしい。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え

留学生に関しては今後も法令遵守した管理を実施していく。また、留学生の勉学に対する積極的な取組姿勢を日本人学生が感じることができる環境を設けていく。

職業実践専門課程認定要件適合評価

１２　職業実践専門課程の認定要件

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	委員構成、開催回数、教育課程の編成内容	教育課程の編成・実施の方針については学校として、また各科ごとに「カリキュラムポリシー」が文章化されいる。 教育課程の編成における企業等との連携については「浜松工科自動車大学校カリキュラム編成委員会」を組織し、静岡県整備振興会より1名、就職関連企業から2名の参加により、合計3名の外部委員と学内委員との構成によりカリキュラム検討を年二回実施している。また、議事録はホームページでも公開している。	4	特になし	特になし
2	企業等と連携した実習・演習等の実施	1 学年については、定期点検実習科目で外部ディーラーの方に授業指導を行っていただいている。また 2 学年については、大型車両実習科目で外部ディーラーの方に授業指導を行っていただいている。それらの科目については、企業の方に試験問題を作成いただき外部評価を受ける形をとっている。	4	特になし	特になし
3	企業等と連携した組織的な教員研修の実施	教員のFD活動については、教育力の向上を目的に積極的に外部の講習に参加している。 自動車整備振興会主催の新技術研修に対しては、教職員全員が参加し先進技術の修得に努めている。	4	特になし	特になし

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
4	学校関係者評価の実施・公表	学校関係者評価委員会のメンバーとしては業界関係者として自動車整備振興会、就職関連企業、父母等、卒業生それぞれの代表で合計4名での運営をしている。年1回開催し、学校関係者との理解促進や連携協力を図るとともに、自己点検自己評価報告に対する助言・意見などの結果を教育活動および学校運営の改善に活用する予定である。また、学校関係者の確認を得た自己点検評価報告書はホームページ上で公開している。	4	特になし	特になし
5	ホームページにおける情報提供	自己点検評価および学校関係者評価委員会議事録等は HP に定期的に公開している。 職業実践専門課程の報告様式である様式 4 についても HP にて公開、更新を行っている。	4	特になし	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え

順次該当する科において職業実践専門課程の申請を実施していく。

国土交通省自動車整備士一種養成施設指定基準に基づく評価(分野別評価・機関評価に相当)

1　教育理念・目的・育成人材像

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	道路運送車両法第１条に基づき自動車整備士の養成を目的としているか。	道路運送車両法の目的である自動車整備技術の向上、コミュニケーション能力を備えた人材の育成を通して、社会の要望に添える整備士の養成をしている。また、目的の達成のため、国が定めた自動車整備士養成等の指定基準に適合した施設・教育者等を整備し、新技術に対応した教育等の実施、コミュニケーション能力、情勢を的確に分析しその変化に柔軟に対応できる能力及び国際性を持ち合わせた人材の育成により、社会のニーズを達成できる整備士の養成に努めている。なお、当校は特定整備事業の認証を取得しており、実践的な作業を経験できる環境となっている。	4	特になし	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え
今後も1種養成施設の指定基準に則り運営していく。

２　学校運営

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	道路運送車両法部長 業務取扱通達別表「添付書類一覧」添付書類 1. 2. に基づき運営され、国交省の定期調査によって承認されているか。	令和5年に自動車整備士養成施設の指定を受け、申請書等に記載されている整備士養成に係る課程の種類、修業年限、教育時間単位、教育を実施する施設・設備、当該課程修了及び成績判定基準等について基準に即して運用している。 また、ディプロマポリシーの制定により、自動車整備士資格を取得し社会で活躍するための卒業要件を明示し、その教育に対する評価のシステムも充実させ、その到達レベルを保証している。	4	特になし	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え 今後も基準に即して運用していく。

３　教育活動

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	道路運送車両法　部長 業務取扱通達別表「添付書類一覧」添付書類6．7．に基づく教育内容で運営され、国交省の定期調査によって承認されているか。	令和5年に第一種自動車整備士一種養成施設指定申請を行い指定を受けた。令和6年度からはその内容に従い教育活動を行っている。	4	特になし	特になし
2	部長 基準取扱通達　別表「添付書類一覧」添付書類　7．の基準に基づく教育内容で教育計画表(二級課程及び一級課程)を作成し、それよって運営され国交省の定期調査によって承認されているか。	令和5年に第一種自動車整備士一種養成施設指定申請を行い指定を受けた。令和6年度からはその内容に従い教育活動を行っている。	4	特になし	特になし
3	部長　業務通達第４ 養成施設の報告の基準に基づき教育実績が年度毎報告され、国交省の定期調査によって承認を受けているか。	令和5年度の実績は令和6年4月に、令和6年度の実績は令和7年4月に中部運輸局へ報告済みである。毎年期限までに実績報告書を提出できており、支局から指摘は受けていない。	4	特になし	特になし
4	部長 業務取扱通達　別表「添付書類一覧」添付書類4．5に基づく教育の資格および配置により運営し、国交省の定期調査によって承認されているか。	令和5年に第一種自動車整備士一種養成施設指定申請を行い指定を受け、令和6年度からその内容に従い教育活動を行っている。また、新規に職員が採用された場合は随時教育を行う者（指導員）一覧と資格を更新している。	4	特になし	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え

引き続き国交省の定期調査の承認を受けることができる学校運営を行っていく。

４　学習成果

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	部長　業務通達第４ 養成施設の報告の基準に基づき資格合格率等が年度毎報告され、国交省の定期調査によって承認を受けているか。	令和6年度分の実績は令和7年4月に報告済みである。また、令和7年度分の実績を令和8年4月に報告するよう準備をしている。国交省による定期調査はまだ行われていない。	４	特になし	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え
引き続き国交省の定期調査の承認を受けることができる学校運営を行っていく。

６　教育環境

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	局長通達　教場、必要設備等一覧表の基準に基づき配置され、国交省の定期調査によって承認を受けているか。	令和5年に第一種自動車整備士養成施設の指定申請を行い、教場、必要設備等一覧表の基準に基づき配置されていることが確認されている。また、年々学生数が増加していることから必要な教材、機器を随時増やしている。	4	特になし	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え
引き続き国交省の定期調査の承認を受けることができる学校運営を行っていく。

９　法令の順守

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	道路運送車両法の一種養成施設設置基準に基づく学校運営を行っているか。	令和5年に第一種自動車整備士一種養成施設指定申請を行い指定を受けた。令和6年度からはその内容に従い教育活動を行っている。	4	特になし	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え
引き続き一種養成施設設置基準に基づく学校運営を行っていく。

自動車整備士分野の教育の質保証・特徴化に向けた取り組み内容の評価(分野別評価に相当)

３　教育活動

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	教員の専門性向上、教育力向上に向けた特徴ある取り組みや成果	職員研修の中で授業研究として授業内容の統一を図ることを目的として教職員の意見交換を実施した。また、新採用教員についてはベテラン教員が手本を見せ、それを模して授業展開させている。FD 推進において研修制度の充実について実現を図っている。	3	職員対象の授業研究の充実を図っていく必要があるため、FD 推進を中心に授業研究について検討をしていく。	特になし
2	教育の質保証、質向上に向けた教育内容やシステムにおける特徴ある取り組みや成果	「工科技能検定の実施」 実習科目において修得した技能を科目の履修判定試験の他に総合的に評価する独自の技能検定を学生全員を対象に実施し評価している。	4	特になし	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え
教員の教育スキルを上げる方法を検討し、計画に沿って授業研究等を実施していく。

４　学修成果

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	国家資格の合格に向けた特徴ある取り組みや成果	二級自動車整備士問題をデジタル化し、ペーパーレスで実施できるようにし、学生がいつでも問題に取り組める環境を構築している。また資格対策では少人数によるグループ分けを行い、個別指導を可能とする方法を取り入れている。	4	今後は試験問題の年度更新（追加）を年度の早い段階で実施しいつでも使用できるようにしていく。	特になし
2	就職率、就職の質向上に向けた特徴ある取り組みや成果	企業と連携し、企業奨学生制度を導入する中で、奨学生が早期から複数回、企業と接触する機会を作り、企業の中身をよく知った上で採用試験を受験している。こうしたことがミスマッチを防ぐことにつながっている。	4	特になし	特になし

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え
今後も高い合格率を維持できるように対策を随時見直し運営していく。

○　全般

NO.	評価項目	実施内容等	自己評価	改善案	評価委員会の意見
1	その他学校としての特筆すべき特徴ある取り組みや成果	「常勤教員はすべて1級整備士」 教員の採用に際し1級取得を必須としており、優秀な教員の獲得に努めている。 「企業奨学生制度　協力企業130社以上」 学費負担軽減及び早期に就職先が決定する企業奨学生制度を推進しており、入学生の獲得に効果を発揮している。 「3つのポリシー制定」 学校並びに学科ごとにそれぞれ「3 つのポリシー」を設定している。ディプロマ・ポリシーの中に具体的な育成人材像が設定されており、ホームページ、学生便覧、教室での掲示などで周知を図っている。 その他カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの公表により、学校運営や教育内容について個々の項目ごとにポリシーに準拠している科の認識が高まり、高い教育の質を実現するための指針となっている。	4	年度当初は常勤教員 14 名がすべて1級整備士資格を取得していたが、年度末に 1 級未取得の教員 1 名を採用したため、「常勤教員はすべて1級整備士」というキャッチフレーズは今後使用しない。	職員全員が国家1級取得者となるように頑張っていただきたい。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

今後に向けての学校の考え

1級未取得の職員は1級資格取得を目指し、整備士登録試験に挑戦する。